

外国語科学習指導案

学校名：福岡市立博多中学校

対象：3年1組 34名

指導者：JTE 上野 正純

NS: Leeza Baidya

<p>単元（題材）名</p>	<p>Here We Go! You Can Do It!3 “My Treasure Word” 「3年間を締めくくる言葉を考えよう！」</p>		
<p>学習指導要領に関連する領域別目標</p>	<p>目標（4）話すこと(発表) イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。</p>		
<p>単元（題材）の目標</p>	<p>中学校生活を振り返り、“My Treasure Word”（自分の大切なものや人、思い出、ことば）に関することを、思考ツール（*マンダラートや*マッピング）を使って整理し、発表を通じて、簡潔で分かりやすい英語を使って他の人に紹介できる。</p>		
<p>生徒の実態</p>	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>
	<p>・ 日常会話で使う簡単な動詞（食べる、行く、見る）や名詞（家、学校、友達）などは、文脈・時制を理解しながら、ほとんどの生徒が正しく使用できている。 ・ 基礎的な語彙の定着に課題がある生徒が多い。また、文法知識の理解が浅く、単語を正しく組み合わせて文を作ることが難しい生徒もいる。</p>	<p>・ 生徒は、英語で自分の意見を考え、整理して表現することに苦手意識を持っている。具体的には、意見を述べる際に論理的な理由をつけることや、文と文のつながりを意識することが難しい状況である。</p>	<p>・ 話す活動や協働活動において自発的に学ぶ姿勢はあるが、自ら目標を設定するといった自己調整にはまだ課題が残っている。</p>
<p>単元（題材）設定の理由</p>	<p>（1） 生徒観 生徒アンケートにおいて「自分の考えや気持ちを英語で伝えてみたいと思いますか。」という項目で90%の肯定的回答があった。生徒の多くが英語で自分の考えや気持ちを伝えることに前向きであり、英語学習に対する意欲が高いことがわかる。また、実践的なコミュニケーションへの関心が強いことが推測される。また、「外国の人に英語で質問されたら、英語で答えてみたいですか。」と「外国の人たちと英語で話してみたいですか。」の肯定的回答が89%であった。このことから生徒は英語を学ぶことを単なる教科としてではなく、実際のコミュニケーションの手段として捉えていることがわかる。 また、外国の人と関わることにに対して抵抗感が少なく、積極的に交流しようとする意識が高いと考えられる。 しかし、生徒アンケートの質問「英語の4技能の中で何が苦手ですか？」に対して、45%の生徒が「話すこと」41%の生徒が「書くこと」が苦手だと回答した。 このことから、生徒は英語で話したり書いたりすることに意欲はあるものの、自分の考えを表現することに難しさを感じていることがわかる。特に、「話すこと」に対する苦手意識を持つ生徒が多く、英語で自信を持って発言するこ</p>		

とに不安を感じていると考えられる。そのため、英語を使う場面を増やし、自信をもって話すことができる機会をつくるのが大切である。

### (2) 教材観

本単元「My Treasure Word」では、卒業を迎える生徒が、自分にとって大切な自分の大切なものや人、思い出、ことばを英語で表現し、自己紹介や発表を通じて自分の考えを他者に伝える力を育成することを目指す。これまで学んできた文法や表現を実際の場面で活用することに重点を置き、特に「話すこと」や「書くこと」に対する苦手意識を克服できるよう工夫された活動を取り入れる。

卒業という節目に、「My Treasure Word」を紹介し、振り返りの意味も込めて思い出を大切にすることを意識する。例えば、大切な物、家族や友達との思い出、経験、ことばなど、それぞれが大切にしているものを選び、その理由や背景をシンプルな英語で表現する。この活動を通じて、生徒は英語を「学ぶ手段」ではなく「考え、伝える手段」として実感し、自分の言葉で表現する力を身につける。

### (3) 指導観

本単元を達成するために1月までに指導してきたことは大きく3点ある。

1点目は、「意見を整理する力」を高めるために、マッピングやマンダラートを活用したことである。生徒はこれにより、簡単な語句や文を使って自分の考えを表現できるようになった。しかし、スピーチ後のやり取り（質問と回答）において、相手の質問に即座に答えることが難しく、コミュニケーションが続かない場面が多く見られた。これについては、今後、質問に対する即応力を高めるための練習を重ねる必要がある。測される質問を事前に準備し、それに対する回答を自分なりにまとめておくことで、質問後のやり取りをスムーズに進めることができるようになると思われる。

2点目は、生徒は、インタビューマッピングを活用した即興でのコメントや質疑応答のトレーニングである。特に、質問に対して的確に返すことができるようになったという声が多く、質問への反応が的確に行えるようになっている。「質問を的確に返すことができるようになった」という生徒の声から彼らが自分の考えを明確に表現できるようになったことがわかる。また、質疑応答の練習を重ねる中で、質問する順番を間違えなくなり、関連する質問をするようになったという変化も見られる。「質問する順番を間違えなくなった。関連する質問をするようになった。」と語る生徒は、インタビューの流れを意識して、より構造的な対話ができるようになっている。このように、相手の発言をきちんと理解し、次の質問を適切に展開できる力がついてきていることが伺える。これらの成長は、インタビューマッピングを活用した実践的な練習によって、実際の対話の中で反映されつつある。今後もこのアプローチを継続し、生徒がより自信を持って質疑応答を行えるよう支援していく。

3点目は、ペアやグループ活動を通じて、実際の会話を想定した実践的な練習を行ったことである。これにより、生徒同士が積極的に質問をし合い、話すことへの自信を高めることができた。

本単元では、3年間を締めくくる言葉“My Treasure Word”を、思考ツールを使って考え、整理し、発表や改善を行うことで、次のステージに向けて中学校での英語学習の集大成を表現できるように工夫している。

単元（題材）の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------------	-------	----------	---------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す書く活動で学んだ文法や表現を活用して内容を伝えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「My Treasure Word」の選択理由を論理的に整理し、筋道立てて説明できる。</li> <li>・聞き手に分かりやすい言葉や表現を選び、説得力のある発表を行える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業活動（ペアワーク、グループワーク、発表）に積極的に参加し、自分の考えを伝えようとする態度が見られる。</li> <li>・「My Treasure Word」に関連する話題を掘り下げ、自分の価値観を英語で表現しようとする意欲がある。</li> </ul>
--	--	---	---

## 1 単元の指導と評価の計画（全7時間）

時間	学習内容学習過程等	【評価の観点】評価基準	前時の内容（◇） 学習課題（■） 主な学習活動（○）			
			※指導上の留意点 単元の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現を目指す主な場面			
事後活動	自分が行ったスピーチを文集にして全員に配布する。	記録に残す評価は行わない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■スピーチした内容をワークシートに書く。その際、絵や図を用いるとより伝わりやすくなることを伝える。</li> <li>○各クラスで文集に、生徒に配布する。</li> </ul>			
第6・7時	「My Treasure Word」に関するスピーチを英語で発表する。	<p>【話すこと(発表)】</p> <p>聞き手に配慮したスピーチを発表することができる。</p> <p>話し手の内容を理解し、質問することができる。(ワークシート)</p>	<p>◇①NSが前回の授業で伝えたスピーチをする際のアドバイスを生徒たちから聞き出す。</p> <p>②授業の流れと目標の確認。</p> <p>③発表時のルールを確認する。</p> <p>④発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実際に「My Treasure Word」に関するものを持ってきて見せるか画像を使ってスピーチを行う。</li> </ul> <p>⑤質問タイム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒1人とNSはスピーチに対しての質問を行う。発表者は即興でその質問に答える。</li> </ul> <p>⑥小グループで口頭による振り返りを行う。</p> <p>⑦教師・NSによる最後のコメント</p> <p>◇「単元前と後で何ができるようになったのか、何が課題として残ったのか」ワークシートを使って振り返る。</p>			
			<table border="1"> <tr> <td>主体的な学び</td> <td>対話的な学び</td> <td>深い学び</td> </tr> </table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び				

第5時	相手の「My Treasure Word」について*インタビューマッピングを行ったり、NSのアドバイスを取り入れたりして、自分のスピーチを改善する。	<p>【話すこと（発表）】</p> <p>相手の「My Treasure Word」に対する理解やインタビューの情報を効果的に組み込み、NSのアドバイスを反映させた、明確で流暢な英語表現を使ったスピーチができる。</p> <p>（マッピング・ワークシート・様相チェック）</p>	<p>◇ Teacher Talk でこれまで生徒が取り組んできたことをNSとJTEでやり取りしながら話す。</p> <p>①修正①の導入 NSがJTEにインタビューマッピングを行い、モデルを提示する。</p> <p>② NSの質問からNSがJTEのマッピングに赤で新しい情報を付け加えていく。</p> <p>③ 本時の目的を伝える。</p> <p>④ ペアになりインタビューマッピングを行う。</p> <p>⑤ 生徒は自分のマッピングに赤で新しい情報を付け加える。</p> <p>⑥ 修正②の導入 JTEが再びスピーチを行う。 それに対してNSがまだ改善できることを伝える。</p> <p>⑦ 修正②を行う。 i : 個人で修正する。 ii : ペアで発表し合う。 iii : 発表をする。</p> <p>◇本時の振り返りを行う。</p>			
			<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">主体的な学び</td> <td style="background-color: yellow;">対話的な学び</td> <td style="background-color: yellow;">深い学び</td> </tr> </table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び				
第3・4時	自分の「My Treasure Word」について、マッピングを用いて考えを整理し、ペアで宝物についてお互いに伝え合う。	<p>【話すこと（発表）】</p> <p>・事実や自分の考えを整理し、マッピングをもとに簡単な語句や文を用いて伝えることができる。</p> <p>（マッピングシート）</p>	<p>◇前時の学習で学んだことを生徒から聞き出す。</p> <p>① 最終目標の再確認をする。</p> <p>② 第1時で作成したマンダラートを用いて、自分の宝物について話す内容をマッピングに整理する。</p> <p>■文と文のつながり（接続詞: because, so, but, when など）を意識した表現を使用できる内容を書く。</p> <p>③ マッピングを用いて、ペアになり、即興で宝物について伝え合う。</p> <p>④ 表現できなかった単語を調べる。</p> <p>⑤ もう一度、ペアで練習。</p> <p>◇文と文のつながりを意識して文章を作れているか再確認する。</p>			
			<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">主体的な学び</td> <td style="background-color: yellow;">対話的な学び</td> <td style="background-color: yellow;">深い学び</td> </tr> </table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び				
第2時	他国の人たちの「My Treasure Word」と比較し、共通点と相違点を見つけ、グループ発表を通して、得た情報や意見を自分のマンダラートに活用し、思考をさらに充実させる。	<p>形成的評価</p> <p>【話すこと】</p> <p>様々な国の人たちの宝物について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉え、共通点と相違点を見つけ、相手に伝えることができる。</p> <p>（スライド・マンダラート）</p>	<p>◇① Teacher Talk NSに自分の「My treasure Word」について説明してもらう。</p> <p>② NSと生徒の紹介するものを比較し、共通点と相違点を見つけるよう促す。</p> <p>③ ある国の子どもの宝物をスライドで紹介する。</p> <p>④ JTEとNSがモデル提示する。</p> <p>⑤ マンダラートに共通点と相違点を書く。 ■自分の紹介するものと比較し、共通点と相違点をそれぞれマンダラートに書きだす。</p> <p>⑥ グループ発表</p>			

			<p>⑦ 振り返り</p> <p>◇他の国の人たちの宝物には文化的背景や具体的なストーリーがあることを伝える。自分のマンダラートにこれらの要素が組み込まれているか確認させる。</p>			
			<table border="1"> <tr> <td>主体的な学び</td> <td>対話的な学び</td> <td>深い学び</td> </tr> </table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び				
第1時	「My Treasure Word」の意味や価値について考え、単元の最終目標を理解する。	<p>・記録に残す評価は行わない。</p> <p>(マンダラート)</p>	<p>◇全単元で学習したことを Teacher Talk で聞く。</p> <p>① Teacher Talk から単元の目標を示唆する。</p> <p>Teacher Talk で Unit7 の Goal の話をし、JTE が今の自分の宝物について話をする。</p> <p>② 「My Treasure Word は何か？」という題をペアで対話する。</p> <p>例) What do you think a treasure word is?</p> <p>A : (1)picture, pen, ball, favorite things</p> <p>(2)family, friend, favorite people</p> <p>(3)school trip, chorus contest, sports day, best memory</p> <p>(4)Do your best, practice makes perfect, favorite words</p> <p>③ 単元の目標を伝える。</p> <p>④ マンダラートを用いる。</p> <p>■My Treasure Word をマンダラートで内容を広げる。</p> <p>■その中からみんなに紹介したいものを1つ選び、そのことについてさらにマンダラートで内容を広げる。</p> <p>⑤ ペアで互いに「My Treasure Word」について質疑応答する。</p> <p>What is your treasure word? And why?</p> <p>⑥ 単元の最終目標の再確認をする。</p> <p>◇次の時間に NS と「紹介したいもの」について考えを深め合う活動があることを伝える。</p>			
			<table border="1"> <tr> <td>主体的な学び</td> <td>対話的な学び</td> <td>深い学び</td> </tr> </table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び				

3 本時の目標

「劇的 before・after」で自分のスピーチを改善することができる。

4 本時の展開(4/7時間)

赤が教師主導の活動 青がペアやグループで活動 黄が個人の活動である。

教師と生徒の「やり取り」の場合、教師主導の色の下にやり取りを青く示している。

なお、青色であっても個人の活動を含む場合がある。

段階	学習内容	教師の役割		※指導上の留意点
		JTE	NS	◆評価【観点】(評価方法)
授業前	1 Greetings 2 Small Talk	・NS の授業が最後だということを NS とやり取りしながら話す。	・NS の授業が最後だということを NS とやり取りしながら話す。	※修正①の導入につなげるために Small Talk で本時の目標について触れる。 ・ Look at this! This is Today's Goal.
導入	3 修正①の導入 ①JTE のスピーチを聞く。 ②NS がインタビューマッピングを行う。 ③JTE のスピーチのマッピングが修正されてくを見る。	・自分の宝物についてスピーチする。 ・NS からの質問を答える。 ・生徒に質問を促す。 ・修正されたマッピングでもう一度スピーチをする。	・JTE のスピーチを聞いて、改善点があることを伝える。 ・聞く側が知りたいであろうことを質問する。 ・生徒に質問を促す。 ・JTE のマッピングに赤で情報を付け加えていく。 ・生徒に修正前と修正後のスピーチ、どちらが良いか尋ねる。 ・今日の目標を確認させる。	※NS は、スピーチや作文の書き方について教えるのが得意であることを伝える。 ・ You are good at making a speech. ※スピーチをさらに聞く人の心に残るものにするには、どんな質問をしたらいいか、NS がいくつか質問例を示す。 ・ Do you have any story for your treasure word? ・ Tell me more! ※NS の質問後は、以下のようにマッピングを修正していく。
展開	4 めあての確認			
「劇的 before・after」で、自分のスピーチを改善しよう。				

<p>3 修正①</p> <p>①ペアになり、一人がスピーチを行う。もう一人は、ペアのスピーチをマッピングする。</p> <p>②ペアでインタビューマッピングをおこなう。</p> <p>③質問の答えを赤でマッピングに情報を加えさせる。</p> <p>④新しいマッピングを見ながら練習する。</p> <p>⑤ ペアを変えて練習する。</p> <p>⑥ 発表を聞く。</p> <p>4 修正②の導入</p> <p>5 修正②に入る</p> <p>①個人で修正する。</p> <p>②ペアを変えて発表し合う。</p> <p>③発表を聞く。</p> <p>6 振り返りを行う。</p>	<p>・生徒の支援を行う。</p> <p>・全体で発表できそうな生徒を1名探す。</p> <p>・NS のおかげで内容が良くなったことを全体に伝える。</p> <p>・NS のアドバイスを聞き、スピーチをする。</p> <p>・JTE のスピーチのマッピングに必要なことを書き加える。</p> <p>・生徒の支援に入る。</p> <p>・全体で発表できそうな生徒を1名探す。</p>	<p>・生徒が質問を円滑にするために6WIHについての説明をする。</p> <p>・どこがよくなったかを具体的にコメントする。</p> <p>・前で発表した生徒のスピーチをさらに改善できることを伝える。</p> <p>・JTE の改善後のスピーチを聞き、さらに改善するためのアドバイスを伝える。</p> <p>・生徒の支援に入る。</p>	<p>※「劇的 before・after」という言葉を使って、生徒にやる気を出させる。</p> <p>※マッピングの内容がよりよくなるように生徒に意識させる。</p> <p>※相手が話しているとき、反応や相づちを忘れないように机間指導をしているときに生徒に伝える。</p> <p>※良い質問をしていた生徒がいたら例えば“Your question is very nice”等と言い、生徒のやる気を鼓舞する。</p> <p>※困っている生徒を見つけたら、すぐに隣に行き支援を行う。</p> <p>※発表者のマッピングを全体に示しながら、発表を聞かせる。</p> <p>※文の順番を変える、別の表現方法を使う、聴衆へ問いかける、心のつぶやき、間を入れる、ジェスチャー等で、さらにスピーチがよくなることを伝える。</p> <p>※ノードに番号を加え、グルーピングをした上で first, second, lastly のように「論理」的に言うように伝える。</p> <p>例)</p> <p>※discourse marker (一覧表) を用いてそれをどこに入れるかを考え</p>
--	---	---	---

			<p>させる。</p> <p>※赤が入ったマッピングを見ながら、before と after の違いに気づかせる。</p> <p>◆ 授業前と授業後ではどのようにスピーチが変わったのか感想を書く。(振り返りシート)</p>
--	--	--	---

5 授業の視点

- ・生徒がインタビューの中で相手の話をしっかりと聞いて返答しているか。
- ・修正①と修正②の後でスピーチは ①どのくらい ②どのように 変容しているか。

～用語解説～

マンダラート、階層式マッピング、探求コーラル・マップは、いずれも中嶋洋一が提唱する思考ツールである。詳しくは、DVD『6-way Street 下巻』(中嶋, 管, 北原, 久保田, 田尻, 蒔田/バンブルビー)中嶋の解説や、『英語教育 2024 年 10 月号』「階層式マッピング」で鍛える「思考・判断・表現」(三仙, 高杉, 富藤, 中嶋, 山内/大修館書店)を参考にされたい。

\*マンダラート

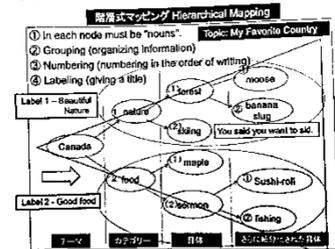
9つマスを用意し、中心に最も関心のあることを書く。関連することをまわりの8つのマスに書きこんでいく。発想力を高めることをねらいとする。

Shibuya	ghost	Jack-o-Lantern
costume	Halloween	pumpkin
trick or treat	street performance	October 31 <sup>st</sup>

『英語教育 2024 年 10 月号』P. 35(大修館書店)

\*階層式マッピング

従来の放射状に広げるマッピング(トニー・ブザン式)ではなく、英語の語順の様に左から右へ、それぞれの情報を階層式に広げるマッピングである。



『英語教育 2024 年 10 月号』P. 34(大修館書店)

\*インタビューマッピング

思考力を鍛える即興での活動、名前がインタビュー (&)・マッピングとなっているのは、インタビュー自体が目的をもった言語活動のためである。インタビューでは、マッピング(グルーピング、ナンバリングを含む)を使って内容を整理しながら、相手の言っている内容を深掘りしていく必要がある。活動後には、ノート等に履歴が残るため、マッピング・シートを参考にしながら、違う友人にその内容を伝えたり、ノートにわかったことをレポートし、それをグループで回し読みをしてコメントを書き入れたりといった「つながる言語活動」にまで発展することができる。

詳しくは「なかよう備忘録」の2024年9月15日「階層式マッピング」で鍛える「思考・判断・表現」と「探求しようとする意欲」をご覧ください。